

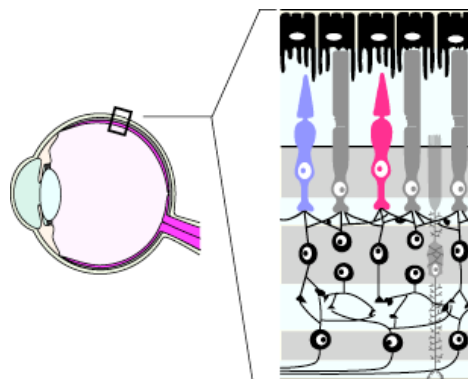
キーワード： 視覚障害、網膜色素変性症、遺伝子診断

## 網膜の変性と再生に関する研究

網膜色素変性症の遺伝子診断・治療を目指して

### なんのための研究？

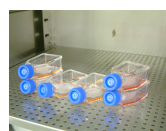
網膜色素変性症は、視覚障害を引き起こす遺伝性疾患です。網膜細胞が、徐々に変性脱落していく病気で、現在、有効な治療法はありません。本研究では、原因となる遺伝子を同定し、この病気の診断法や治療法の開発を目指します。



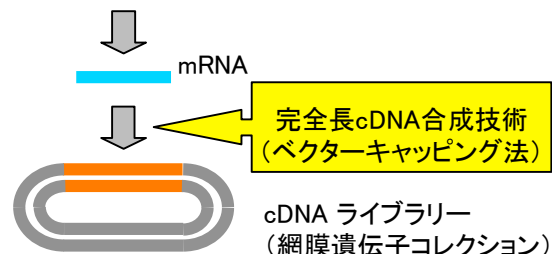
網膜の構造

### 研究のポイントは？

ヒトの網膜細胞で発現している遺伝子をすべて取得し、この中から網膜変性を引き起こすと考えられる原因遺伝子候補を選別するところが、本研究の特色です。そのために必要となる新しい技術（完全長cDNA合成技術）を開発しました。

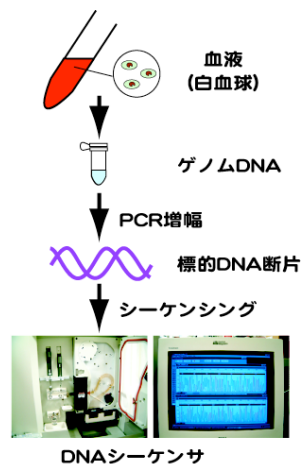


株化網膜細胞培養



### 実用化に向けて

当センターの病院眼科に来院された網膜色素変性症の患者の方々から提供された血液から抽出したゲノムDNAを用いて、原因候補遺伝子の塩基配列に変異が無いかどうかを調べています。原因遺伝子が判明すると、適切な遺伝子カウンセリングや遺伝子治療の開発に役立つことが期待されます。



研究代表者

国立障害者リハビリテーションセンター研究所  
障害工学研究部  
加藤誠志 kato-seishi@rehab.go.jp

